

ANNUAL REPORT

2024

NPO法人モンキーマジック
2024年度 活動報告書



**MONKEY
MAGIC**

代表挨拶

仲間になることは

社会を豊かにすること

元旦の能登半島地震に始まり、気候変動の影響による酷暑や豪雨が私たちの生活にも影響を与えた2024年。

パリオリンピック・パラリンピックでは、メディアを通じて華々しい舞台で活躍するアスリートの姿が届いた一方で、4月1日には「障害者差別解消法」が改正・施行され、民間事業者による合理的配慮が法的義務化されました。障害のある人となない人で機会や待遇に差が生じないよう整備を求める「合理的配慮」は、共生社会の実現に向けて必要不可欠な措置ですが、「そこまで求めるのは難しいと思う」そんな声もSNSを筆頭に散見されました。こういった意見を目にするたびに、私たちモンキー

マジックは、障害者と出会う機会や直接交流する機会をつくることの大切さを実感し、「あるべき社会」の実現に向けた原動力にしてきました。

中でも、全国の皆さんの力を借りて各地に広げてきた交流型クライミングイベントは「モンキッズ」として首都圏の小中学生対象のイベントに昇華され、2012年から培ったノウハウをアジアの国々にも届けようと、シンガポール・台湾での取り組みも始めました。「手を差し伸べるべき相手から、ともに楽しむ仲間へ。」そんな真の理解とも言える社会の変化は少しずつ年代も地域も人数も、確実に広がっています。

2025年の8月には20周年を迎えるNPO法人モンキーマジックはSDGsの先を見据え、クライミングを通じてより豊かな社会へと導くことのできるよう努力を続けてまいります。この1年の報告と共に、これからも一層のご支援ご指導を、どうかよろしく申し上げます。

2025年3月 代表理事 小林 幸一郎

活動要旨

一人ひとりが踏み出せるきっかけを

2024年も多くの個人・法人の皆さまからの温かいご支援を受け、活動を着実に進めることができました。

会計上では、前年末に事業譲渡を行ったボルダリングジムの売上がなくなったことで収入は減少しましたが、運営コストを見直し、公益活動により多くのリソースを注ぐ体制が整いました。また、助成金を活用することで、自己財源では実現が難しい取り組みにも挑戦でき、活動の幅が広がったと感じています。

特に2024年は、活動の原点であるアウトドアスクールを開催できました。自然の中で身体を動かす楽しみを知るきっかけを届けることができました。

今後も一人ひとりの目標や挑戦を支える機会を継続

し、広げていくためには、安定した運営体制の構築が欠かせません。中長期的には、助成金に依存しない持続可能な財政基盤の確立が求められています。

中でも、THE NORTH FACEやCHUMSをはじめとする法人の皆さま、そして多くの個人の皆さまからの継続的なご支援は、自主事業や管理部門の安定運営を支える大きな力となっており、私たちの活動を根底から支えていただいております。

これからも障害の有無に関わらず、誰もがクライミングを通じて自分らしく一歩を踏み出せるきっかけを届けられるよう、丁寧に活動を続けてまいります。

副代表 水谷 理

Summary

もくじ

代表挨拶・活動要旨

▶ P1

VOICE

モンキーな人々に話を聞いてみた

▶ P3-5

TOPIC

2024年のトピック

▶ P6-10

主催事業

交流型クライミングイベント/スクール・練習会

▶ P11-13

主催事業

地域交流事業

▶ P14

受託事業

講習会 / 講演など

▶ P15-16

MEDIA

メディア掲載・出演

▶ P17-18

OTHER

サポートグッズ・その他の事業

▶ P19

DONATION / SUPPORT

寄付・協賛のお願い

▶ P20-21

ABOUT

モンキーマジックについて

▶ P22

※「障害者」の表記については、公的機関でも使用している漢字での表記に統一しています。これは「障がい者」や「障碍者」などの表記に対して、「害」という表記のみに敏感になり本質を見落とすことがないように、という私どもの意志によるものです。

代表 小林 幸一郎(視覚障害当事者)

Voice

モンキーな人々に話を聞いてみた

Voice

モンキーな人々に話を聞いてみた

#常連さん

#視覚障害当事者

01 | 椎橋 瑠里子さん (44歳)

スクールやイベントに参加して下さっている瑠里さん。最近ではパラクライミングの大会にも出場！

私がNPO法人モンキーマジックと出会ったのは、2015年の春でした。

きっかけは、コンビニで地面に足をつかずに買い物をするテレビ番組を見たことでした。当時は、番組企画のものだと思っていて、実際にクライミングというスポーツが存在していることを知りませんでした。

それを友人に話したら、全盲の男性が代表を務めているNPO法人モンキーマジックという団体があるから、そこに行ってみたら体験させてもらえると聞き、当時渋谷で開催されていたフライデーマジックに参加したのがきっかけでした。

印象に残っていること

特に印象に残っているのは、アウトドアクライミングスクールに参加したことでした。

山登りに加えてクライミングをするのはほぼ人生初の体験で、目の悪い自分が舗装されていない山道を安全に歩けるのか不安でもありましたが、**モンキーのスタッフさんの手厚いサポートのおかげで不安なくアプローチができたこと**。そして、初めて外の岩山で終了点まで登れた達成感と、**自然の中で登る何とも言えない気持ちよさは忘れられない思い出**です。



いいと思ったださっている点

モンキーのスタッフさんの視覚障害者との接し方がとても自然で、いい意味で気を使いすぎないで接してくれることで、**変な隔たりを感じずに過ごせること**、**自分のほうからも気軽に声をあげていきやすい環境に居心地のよさを感じています**。

一度クライミングから離れていた瑠里さん。再開しようと思ったきっかけ

2015年にクライミングを始め、スランプなどあり2018年秋ごろに一度完全に離れたのですが、2022年秋頃からまた再開しました。きっかけは、**コロナ禍で身近なお店が軒並み閉店に追い込まれる中、私のクライミングライフを支えてきてくれた大好きな場所、モンキーマジックと大好きなモンキーのスタッフさんたちにもう一度会いたかったから**でした。

モンキーマジックに期待すること

障害がある人もない人も、先天の人も中途の人も、どんな年代の人も共に、「障害があるからできないのではないか」という精神的なハードルを払拭して、モンキーマジックがクライミングを安全に楽しめる場所で末永くあり続けてほしいと願っています。

02 阿部 桃子さん (22歳)

(スタッフになったきっかけは、)パラクライミングの大会のお手伝い経由で、モンキーマジックの唯さんから声をかけていただいたのがきっかけだった気がします!

マンデーマジックのスタッフになって印象的だったのは、こばさんと街中でたまたま会って声をかけたという方が、クライミング未経験で参加してくださっていたことです。色々なところで輪が広がってくんだなぁと実感しました。

ボランティアをしてみて、何か変化は感じますか?

障がいの有無でルールを変えるのではなく、みんなと同じ課題を登っていて、スポーツの本質は「誰でも挑戦できること」「誰もが楽しめること」なんだと実感しました。



思い出は、学生さんなど初参加の方々との交流が印象的でした。モンキーマジックの活動が広がって、クライミングを楽しんでくださる人が増えているように感じてうれしかったです。いつも参加してくださる方も、クライミングにトライする際に、常に親切なアドバイスと応援の言葉をくださり、励みになりました。

いいと思ったださっている点

人が温かいところだと思います。私がトライしているときに明るい言葉をかけてくださったり、どんな障害のある方にも丁寧に接してくださる方がたくさんいて、ボランティアをはじめてまだ1年も経っていませんが、いろいろな人にお話を伺うことができました。また、葛西、高田馬場などアクセスがいいところでの開催であることも魅力だと思います。



いいと思ったださっている点

老若男女、クライミング経験の有無・強さに関わらずみんなが楽しんで登っている空間が好きです!(モンキーマジックに期待することは、)他のスポーツとの交流もあったら楽しそうだなと思います!

大谷 七奈さん (19歳) 03

出会いは、小学校高学年の時でした。父が上肢神経障害なのですが、障害の有無に関わらず参加できるコミュニティを探していて、モンキーマジックとはその時に会いました。大学生になってボランティア活動をしたと考えたときにモンキーマジックさんの力になりたいと思い、学生ボランティアを希望しました。

モンキーマジックに期待すること

東京、関東にとどまらない幅広い活動ができればいいと思います。他国での開催も少しずつ計画・実施されていると伺いました。簡単な話ではありませんが、津々浦々の学生や社会人の方々にとって親しみを持てるような団体でありたいと考えています。また、パラクライミングがパラリンピックの競技になることでいろんな競技者が集まり、モンキーマジックの活動がよりにぎやかになればいいと思います。

04 高野 洋さん (54歳) ・高野 さちさん (48歳)

2024年に開始した当初にマンスリーサポーターになってくださった高野さんご夫妻。2024年は、モンキーマジック主催の目かくしコンペに出場して下さったり、19周年を一緒にお祝いいただきました。

モンキーマジックとの出会い

洋さん:モンキーマジックを知ったのは10年ほど前です。見えない壁を登る姿に圧倒されました。その後もジムで何度か見かけましたが、気になりつつも声をかけることはできませんでした。単に楽しいだけで登っている私とは別世界かと。

ところが昨年たまたま月額寄付の仕組みを知り、これなら無理なく応援できると思い申し込みました。出会いからずいぶん時間がかかりましたが、ようやくガンバと言えた気がしています。

さちさん:2016年にノースフェイスのチャリティーTシャツを可愛いな、と思い購入したことが出会いです。

当時ジムボルダリングを始めて2年目。見た目に惹かれ購入したTシャツのno sight but on sight!ってどういう意味?と調べてモンキーマジックの存在と活動を知りました。



いいと思ったださっている点

洋さん:ここに集まるみんなの笑顔がいい。クライミングは楽しいものだ!とあらためて感じさせてもらえます。

さちさん:コバさんの偉業と魅力はもちろん、スタッフの皆さんがそれぞれオープンで真摯な方で、こんな素敵なお人達が支えていたんだなぁと驚きました。

活動に参加・支援して感じたこと

洋さん:表立って支援するのはおこがましく、常に応援し続けられる自信もない。そんな自分でも気張らずに半ば自動的に継続できる、ほどよい関わり方が月額寄付だと思っています。

参加した見ざるチャレンジクライミング(目かくしコンペ)では、障害があってもなくてもみんなで一緒に楽しめることを実感しました。素直に喜んだり悔しがったりできることが嬉しかったです。

さちさん:今クライミングを趣味にして10年目で、自分でも不思議ですが、ここ最近、クライミングでグレードを更新したいとか他人よりちょっと秀でたいという気持ちが随分落ち着き、その一方で日々の淡々とした練習が楽しくなりました。



イベントに参加する中で、障害の有無に関わらず、多様な人がその人のやり方で目の前の課題に取り組む姿自体がとても良いと感じ、自分も自分のできることでよりフォーカスするようになったのかもしれない。

モンキーマジックに期待すること

洋さん:「見えない壁だって、越えられる!」クライミングに限らず、日常の様々な場面でとても勇気づけられる言葉です。モンキーマジックには、このシンプルで力強いメッセージをこれからも発信し続けてほしいと思います。

さちさん:いろいろ大変な事もあると思いますが、活動を末永く続けて頂きたいです。私もモンキーマジックに応援し、応援される存在として細々でも関わり続けられたら嬉しいです。

Topic

2024年のトピック

Topic

2024年のトピック

ナイキジャパン本社で上映会が開催されました



ナイキジャパン本社にて、社内イベントとして映画「ライフ・イズ・クライミング!」の上映会が開催され、代表小林がトークセッションに参加させていただきました。

トークセッションでは多くのご質問もいただき、とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

映画「ライフ・イズ・クライミング!」が、日本映画批評家大賞「ドキュメンタリー賞」を受賞!



代表小林も主演を務める映画「ライフ・イズ・クライミング!」が、第33回日本映画批評家大賞「ドキュメンタリー賞」を受賞しました。

5/22(水)には、東京国際フォーラムにて授章式も開催され、中原想吉監督への花束贈呈のプレゼンターを代表小林と鈴木直也さんが務めました。

ビリー・ジーン・キング・カップの応援に行きました



プレー・アカデミーからご招待をいただき、チャレンジドガールズクライミングスクールの参加者の子どもたちと、有明コロシアムにて開催されたビリー・ジーン・キング・カップに出場する大坂なおみ選手の応援をしにいきました。初めてのテニス観戦、大坂なおみ選手の写真撮影や握手、サインなどに大興奮でした。

東京神宮ライオンズクラブ40周年記念式典に代表小林が登壇



明治記念館「芙蓉の間」にて、東京神宮ライオンズクラブ チャーターナイト40周年記念式典が開催され、代表小林が記念アクティビティの発表と謝辞にて登壇しました。

当日は約80名の、東京各地のライオンズクラブの方々にモンキーマジックの活動を知っていただくことができました。

カナダ・トロント日本映画祭にて「ライフ・イズ・クライミング！」が上映され、観客賞を受賞！



カナダ・トロントにて開催されたトロント日本映画祭にて、映画「ライフ・イズ・クライミング！」が上映作品に選ばれ、約300人の来場者を前に上映されました。初の海外展開となりましたが、観客の皆さまからの投票で決まる観客賞を受賞しました！映画祭の歴史の中で最も高い得点のひとつと、関係者からもご評価いただくことができました。

北杜市・THE NORTH FACE連携事業を開催



山梨県北杜市のクライミングジムLOKUBOKUにて、「北杜市・THE NORTH FACE連携 市制20周年記念事業 Challenge Climbing in HOKUTO 2024」が開催され、モンキーマジックは障害者クライミング体験教室を担当しました。

世代や障害の有無関係ない約30名の方々にご集まりいただき、トップロープクライミングとボルダリングを楽しんでいただきました。

盲導犬の里・富士ハーネスで映画『ライフ・イズ・クライミング！』 上映会と特別デモンストレーション



映画『ライフ・イズ・クライミング！』の上映会とトークショー、特別デモンストレーションに登壇しました。デモンストレーションでは、盲導犬のPR犬と共に、協会のスタッフさんの進行のもと、代表の小林が視覚障害者としての暮らしや、視覚障害のある方とのコミュニケーション方法についてお話しさせていただきました。

法人設立19周年！障害者クライミング普及活動を行うNPO 法人モンキーマジックのプロモーションビデオが公開！



2024年8月25日にモンキーマジック設立19周年を記念して、マンデーマジックや自然の岩場でのスクールなどを参加者の声とともに紹介したり、障害者クライミングの普及に対するスタッフや代表小林の想いが詰まったプロモーションビデオが公開されました。監督は「ライフ・イズ・クライミング！」の中原想吉さん。

山形・寒河江のノバリアクライミングジムグランドオープンセレモニーに参加しました。



就労継続支援A型事業所を運営する株式会社カイセイが運営するノバリアクライミングジムのグランドオープンを記念したセレモニーでは、副代表の水谷がNPO法人モンキーマジックの活動を紹介し、代表の小林はクライミングのデモンストレーションを行いました。障害のある方々もジムや併設されたカフェで多く働いており、地域の方や、クライミングを愛する方が日本中から訪れ、多様な交流が生まれています。

沼津視覚特別支援学校中学部修学旅行にてクライミング指導



静岡県立沼津特別支援学校中学部の修学旅行で東京を訪れた3年生3名のクライミング体験指導を、NOBOROCK高田馬場店で担当しました。

修学旅行という特別な思い出とともに、同じ視覚障害者である小林やクライミングとの出会いが、今後の人生で思い出される経験となればうれしく思います。

宮城県立視覚支援学校創立110周年記念式典にて講演会とボルダリング体験会の指導を担当



講演会では、小林より「見えない壁だって越えられる」をテーマに講演しました。

ボルダリング体験会では、「さわってみよう、登ってみよう」をテーマに幼稚部～高等部保険医療科・専攻科までの40名の児童・生徒皆さんにホールドに触ったり、実際に登り体験をしてもらいました。

東京都立桐ヶ丘高等学校にて副代表水谷が特別講師を担当



副代表の水谷が1年生の指定科目「ボランティア」の授業の特別講師を務め、合計12クラス・約160名の生徒を対象に講義を行いました。本年度の授業テーマは「インクルーシブ教育」。視覚障害をはじめとする障害への理解を深め、モンキーマジックの活動紹介を通じて多様性を認め合うことの重要性和、自ら行動を起こすことの大切さを伝えました。

第10回 見ざるチャレンジクライミングを開催！



毎年恒例の主催目かくしクライミングコンペが記念すべき第10回。参加者は19組46名(内、視覚障害12名、身体機能障害1名・サイトガイドを含む)で、たくさんのボランティアの方にも関わっていただき、アフターパーティーまで大盛況のイベントとなりました。

〈特別協賛〉THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)/CHUMS(株式会社ランドウェル)/株式会社シーワテック/lululemon/株式会社カイセイ(ノバリアクライミングジム)

第24期 朝日ライフ SRI 社会貢献ファンドの寄付先に採択！

2024年10月、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社のSRI 社会貢献ファンド(愛称:あすのはね)の、第24期寄付先 7団体のひとつに選んでいただきました。贈呈式では、代表小林・副代表水谷が参加し、モンキーマジックの活動報告をさせていただきました。

シンガポールで初の交流型クライミングイベントを開催！



シンガポールのOutpost Climbing Gymにて、シンガポール初の交流型クライミングイベント「Merdeka Monkey」を開催しました。イベントには、視覚障害者を含む70名以上が参加しました。運営を担ってくださる地元組織を繋ぎ、定期的なイベント開催を目指し、連携を深めています。

成蹊大学ボランティアセンター10周年記念セミナーにて講演

センター設立10周年成蹊D&Iセミナー「共生社会の実現」の締めくくり講演が市民公開型にて開催され、代表小林が登壇しました。これをきっかけに学生の皆さんがモンキーマジックの活動へボランティアとして関わっていただけるようプログラムの整備を進めています。

Business (Non-profit, Profitable)

主催事業 / 受託事業 / その他の収益事業

主催事業

交流型クライミングイベント / スクール・練習会

主催事業

- ① クライミングスクール・練習会
- ② 交流型クライミングイベント
- ③ 地域交流型クライミングイベント

2024年の開催実績

- ✓ 開催回数
総計 **209**回
- ✓ 参加者数
のべ **1804**名
- ✓ うち障害者
のべ **909**名
(視覚/聴覚/身体機能/重複含む)



クライミングスクール・練習会

インドアスクール

開催回数 **9**回 参加者 **52**名 (うち障害者 **50**名)

内訳 視覚障害 **41**名 身体機能 **8**名 その他 **1**名

練習会

開催回数 **9**回 参加者 **52**名 (うち障害者 **50**名)

チャレンジドガールズクライミングスクール

開催回数 **30**回 参加者 **146**名 (うち障害者 **146**名)

内訳 視覚障害 **108**名 身体機能 **21**名 聴覚障害 **5**名 その他 **12**名

本企画は「障害のある女性の自立支援を目的としたクライミングプロジェクト」の一環としてローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団から「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」助成を受け実施しています。

ナイキジャパン 森本さんのインタビューは次のページ [👉](#)

助成いただいている「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」で、チャレンジドガールズクライミングスクールのプログラム設計や運営のご支援をいただいたナイキジャパン森本さんにお話を伺いました。



支援社インタビュー ナイキジャパン 森本さん

ナイキジャパングループ合同会社 シニアディレクター
アジアパシフィック ソーシャル・コミュニティ・インパクト
森本 美紀さん

モンキーマジックとの出会いについて教えてください

「プレー・アカデミー with 大坂なおみ」が始まったばかりの2020年に、プログラムに参加してほしい団体があると当時のローレウス・スポーツ・フォワード財団の担当者からお話をいただいたことを鮮明に覚えています。その当時、ナイキではどういったスポーツや活動が女の子の自己肯定感の向上や、健やかな生活に貢献できるかを考案中でした。

女の子向けのプログラムを作る上で重要なのは、一人一人に合ったペースで自身のプログレス（進捗や改善）を体感できるか、他者との繋がりを通じて自分の居場所を見出せるか、という点です。モンキーマジックの活動内容を聞いて、これは素晴らしいインパクトを女の子にもたらしてくれる活動だと確信しました。

クライミングというスポーツをどのように感じていますか？

一つ一つステップを踏めば、ゴールがある。**失敗も、進んでいることも、体と心で実感できるのがクライミングの最高の醍醐味**だと思います。その魅力を体感できるのがモンキーマジックの「チャレンジ

ドガールズクライミングスクール」であり、ナイキの共同設立者ビル・パウワーマンの言葉にもある「体さえあれば、誰でもアスリート」を体現している活動だと思っています。

モンキーマジックの活動について、ご評価いただけている点があれば教えてください

日本社会で育った一人として、社会が女の子や男の子に期待する“こうあるべき枠”にはまらなければいけないというプレッシャーが大きいと感じてきました。今もなお、子どもたちが自分のペースで挑戦でき、「失敗しても大丈夫」と思える社会的環境がなかなか整っていないのが現状です。もし、スポーツが子どもや女の子の目線に立って実施され

ば、適切な環境を提供する最適なツールになるはずです。**モンキーマジックの活動はまさに、障害のある女の子がスポーツを使って自分自身の成長を体感できる環境やコンテンツを提供いただいていると、活動視察や参加者や保護者の皆さんの声を聞いていて感じました。**

今後、モンキーマジックに期待することはありますか？

女の子、特に障害を持った女の子たちがクライミングを通じて自信を持ったり、他者と繋がったりするということは、身近にいるコーチや保護者の皆さんが寄り添ってこそ提供できる経験だと思います。また、**クライミングは一人で登っているのに、後ろから聞こえる声が必要な支え**だと学びました。

発達障害児者のクライミング機会 拡大プロジェクト

開催回数 **8回**
参加者 **78名** (うち障害者 **36名**)

障害の内訳
知的・発達障害 **36名** ※重複含む

アウトドアスクール

開催回数 **2回** (3日程)
参加者 **12名** (うち障害者 **9名**)

障害の内訳
視覚障害 **6名** 身体機能 **1名** 聴覚障害 **2名**

交流型クライミングイベント

マンデーマジック東京@高田馬場

開催回数 **11回** 参加者 **248名** (うち障害者 **148名**)

内訳 視覚障害 **120名** 身体機能 **16名** 聴覚障害 **6名** その他 **6名**

マンデーマジック東京@葛西

開催回数 **12回** 参加者 **107名** (うち障害者 **99名**)

内訳 視覚障害 **72名** 身体機能 **18名** 聴覚障害 **2名** その他 **7名**

マンデーマジック横浜@戸塚

開催回数 **12回** 参加者 **97名** (うち障害者 **43名**)

内訳 視覚障害 **36名** 身体機能 **2名** 聴覚障害 **3名** その他 **2名**

New モンキッズ

開催回数 **7回** 参加者 **49名** (うち障害者 **17名**)

内訳 視覚障害 **17名** (重複含む)

地域交流型クライミングイベント

活動趣旨に賛同して下さった有志により、全国で地域交流イベントが開催・運営されています。

開催回数 **109**回 / **13**地域 (テスト開催は除く)

主催地域数 **18**地域 (4地域は準備中)

参加者数 **963**名 (うち障害者のべ **311**名)

昨年のデータ
 開催回数 : 96回/12地域
 主催地域数 : 15地域
 参加者数 : 902名
 うち障害者 : 299名



New

Merdeka Monkey
(シンガポール)

あなたのお住まいの近くで開催しているイベントをチェック!

地域交流型クライミングイベントの3つのポイント

- 地域の人々が主催して定期的開催する地域に根ざしたクライミングイベント
- 障害の有無や年齢・性別・国籍などの違いに関係なく、全員が同じいち参加者
- 新しい人と人がつながり、多様性を認め合い、クライミングを楽しむ仲間になれる場所

受託事業

障害者クライミング体験会/講演など

クライミング指導 (HKK講習含む)

- ・ 一般社団法人S.C.P.Japan主催の「ハッピースポーツ教室～運動遊びや対話を通じて、自分のことや相手のことをたくさん知ろう!～」と「Find Funスポーツ教室～障がいのあるお子様に寄り添ったやさしいスポーツ教室～」にてボルダリングの講師を担当
- ・ 発達障害など心身の障害のある子ども・青年に対して、野外活動などアクティビティを通して支援を行う「プチ冒険倶楽部」クライミング部活指導を担当(隔月)
- ・ 東京都武蔵野市の生涯学習施設「武蔵野プレイス」のボルダリングウォールにて、武蔵野市障害者福祉センター主催のボルダリング講習会講師をモンキーマジックが担当
- ・ 函館市のボルダリングジムHOMIE(ホームイー)にて、道南地区パラスポーツ指導者協議会主催のボルダリング教室がで開催され、その指導を担当
- ・ 北杜市・THE NORTH FACE連携事業のクライミングイベントにて代表小林が講師を担当
- ・ NPO法人Next one.主催のスポーツ探検隊・スポーツクライミングの指導を担当
- ・ 日本野外教育学会のエクスカッション(体験型の見学会)で「障害者クライミング体験～ブラインドクライマー世界チャンピオンと登ろう～」を東京・三鷹市の三鷹ジムで開催
- ・ 一般社団法人あそび主催「まぜこぜ&ブラインドボルダリング体験」の指導を担当
- ・ NPO法人Next one.主催クライミング体験の指導を担当(台風により中止になったロッククライミングキャンプ代替プログラム)
- ・ 発達障害児とご家族のクライミング体験会をクライミングジム「アラジン」にて開催
- ・ 放課後等デイサービス「コナトウス杉並」夏休み特別企画のボルダリング活動の講師を担当
- ・ 山形県寒河江市のクライミングジム「ノバリア」グランドオープンセレモニーでクライミングのデモンストレーションを実施
- ・ 筑波技術大学の視覚障害学生を対象に、体育集中授業「フリークライミング」の講師を担当
- ・ 静岡県立沼津特別支援学校中学部の修学旅行でクライミング体験指導を担当
- ・ 宮城県仙台市にて、宮城県立視覚支援学校創立110周年記念式典に出席し、代表小林とスタッフ鈴木が講演会とボルダリング体験会の指導を担当
- ・ NPO法人ちば森の楽校の小中学生対象クライミング体験会の指導を担当
- ・ 神戸アイセンター病院内ビジョンパークに設置されたボルダリングウォールでボルダリング体験会
- ・ 筑波技術大学「第17回 三大学連携 障がい者のためのスポーツイベント」ボルダリング体験会
- ・ びわこ成蹊スポーツ大学で「アドベンチャープログラミング」の特別講師
- ・ 「つばさの会」の視覚障害のある青年たちとその家族のデイキャンプの指導を担当

講座・特別授業

- ・公益社団法人 京都府視覚障害者協会指導者研修会にて講演
- ・東京都立桐ヶ丘高等学校の合計12クラス約160名を対象に、1年生の指定科目「ボランティア」の授業において副代表水谷が特別講師を担当
- ・「第20回高知家ロービジョンケアネットワーク勉強会」にて講演
- ・東京神宮ライオンズクラブ チャーターナイト40周年記念式典で代表小林が記念アクティビティの発表と謝辞にて登壇
- ・公益社団法人麻布法人会の第13回 通常総会にて代表小林登壇
- ・亜細亜大学ボランティア論の授業に代表小林がゲスト講師として登壇
- ・第278回仙台ロービジョン勉強会（特定非営利活動法人アイサポート仙台主催）の話題提供者として、代表小林が演者を担当
- ・埼玉県川口市立南中学校で全校生徒約600名を対象に、川口市保護司会様主催で代表小林が講演
- ・諏訪赤十字病院主催「見てみよう！触ってみよう！便利な機器展示」で代表小林が講演
- ・東京都立桐ヶ丘高等学校にて、1年生の指定科目「ボランティア」授業を副代表水谷が担当
- ・岩瀬日本大学高等学校（茨城県桜川市）の文化祭で「多様な価値観への理解促進」講演
- ・山梨県視覚障がい者福祉協会主催の「県下視覚障がい者文化祭」にて講演
- ・東洋大学福祉社会デザイン学部の「製品と情報のユニバーサルデザイン」でゲスト講師を担当
- ・成蹊大学ボランティアセンター10周年記念セミナー「共生社会の実現」にて講演

その他

- ・ナイキジャパン本社で「ライフ・イズ・クライミング！」の上映会、トークセッションに参加
- ・代々木公園織田フィールドで開催された、ルルレモンのランニングイベントにモンキーマジックもチームを組んで参加しました
- ・小林の卒業校 日本大学第一中学校の校外学習にて映画上映会を実施
- ・山形県寒河江市立陵南中学校の上映会に代表小林が登壇
- ・第25回日本ロービジョン学会にて映画上映とトークイベントに代表小林が登壇
- ・日本盲導犬総合センター「盲導犬の里 富士ハーネス」の「富士ハーネスサマーミーティング2024」にて上映会とトークショーに代表小林が登壇
- ・三重県菰野町主催の生涯学習イベントにて、上映会とトークショー開催
- ・日比谷シネマフェスティバル2024で「ライフ・イズ・クライミング！」上映、代表小林が登壇
- ・中国・成都市の第10回「Kendal Mountain Festival China」で上映会とクライミング体験会実施
- ・在日カナダ大使館の国際障害者デーイベントで「ライフ・イズ・クライミング！」上映
- ・港区青山中学校にてライフ・イズ・クライミング！上映と講演会を実施
- ・社会福祉法人グロー主催 第24回バリアフリー上映会COZY TOWNで上映会とトークショーを開催

Other

サポートグッズ・その他の事業

サポートグッズ

THE NORTH FACE サポートTシャツ 2024

19作目は様々な形や色のホールドと外岩の質感を組み合わせたグラフィックで、多様性やアウトドアとインドアの要素を表現しています。



2024 CHUMS バッグ

コラボレーション13作目の2024年モデルは、ジッパーストラップなど随所にクライミングのロープワークで定番のフィギュアエイトノット(八の字結び)があしらわれ、機能性と遊び心を備えたデザインでした。



ROKX(ロックス)クライミング パンツ

コラボ4年目はマルチカラーのショートパンツが登場。コットンのストレッチ素材を使用し、股下部分が動きやすい構造の縫製で快適にクライミングを楽しめる履き心地となっています。



その他の事業

寄付型自動販売機

モンキーマジックの活動に賛同いただいたクライミング・ボルダリングジムはじめ各施設に設置いただいている寄付型自動販売機。売り上げの一部が、モンキーマジックへの寄付となり、障害者クライミング普及の支援に使われます。

講演会・ワークショップのご案内

時間や内容などご要望に応じた講演会やワークショップ、上映会などを承ります。学校や企業研修など場面に応じた内容をご提供します。

多様性をテーマにした講演会やワークショップ、小林幸一郎のライフストーリー講演会等内容もご要望に合わせ実施可能です。日時・内容など、お気軽にご相談下さい。



Media

メディア掲載・出演

Media

メディア掲載・出演

📖 誌面掲載

「福祉タイムズ」2024年2月号に掲載

マンデーマジック横浜の様子を誌面の表紙に、そして「かながわほっと情報」の特集記事に掲載していただきました。

📱 Web掲載

障害者スポーツのウェブメディア”挑戦者たち”に掲載

夕刊（紙面は大阪のみ）とオンライン版『パラクライミングの「レジェンド」現役引退 世界選手権V4の小林幸一郎さん』と題した代表小林的インタビュー画掲載。

📺 TV放送

テレビ朝日「気づきの扉」で代表小林的半生が特集されました

『【全盲のクライマー】日々失われる視力…それでも岩山に挑み続けた理由「クライミングが人生に彩りをくれた」小林幸一郎さんに見る“前向きに生きる”ヒント』が放映

📖 誌面掲載

武蔵野くろすと一くに代表小林インタビュー記事

記事は前後編で構成され、代表小林的ライフストーリーとモンキーマジックの活動の変遷、そして映画制作の経緯にも触れていただきました。

📖 誌面掲載

トロントLife 応援マガジン「GANBARE」に映画「ライフ・イズ・クライミング！」インタビュー掲載

カナダ・トロントで発行されている暮らしの応援情報誌「GANBARE」にて、トロント国際映画祭に登壇した代表小林、鈴木直也さん、中原想吉監督のインタビューが掲載されました。

📺 TV放送

浜松でのクライミング指導のテレビニュースが公式YouTubeでも配信されました。

一般社団法人Asobi!主催イベントでのクライミング指導の様子が「みんな”でボルダリングを楽しむ 全盲クライマー小林幸一郎さんが伝えたいこと「一体感の共有はあるべき社会の縮図～」と題して放映されました。

ラジオ

NHKラジオ第1 全国版ニュース番組Nらじ「みんなのエンタメ」生放送に出演しました。

視覚障害のあるニュースデスク杉田淳さんの「誰もが暮らしやすい社会を考える」というコンセプトの番組で、実際に杉田さんがマンデーマジックに参加された様子も話題になりました。

新聞掲載

産経新聞1面に「モンキッズ」の特集記事が掲載

産経新聞大阪本社夕刊1面とオンライン版に、7/15(月)に開催した小中学生向け交流型クライミングイベント「第1回 モンキッズ」の特集記事が掲載されました。

新聞掲載

毎日新聞「フィールドの向こうに」にて取材記事が掲載

国際ガールズ・デー(10月11日)の前日、毎日新聞夕刊「フィールドの向こうに」に、チャレンジドガールズクライミングスクールの取材記事「女の子のための日」が掲載されました。

TV放送

NHKにて台湾での活動が紹介されました

10/14(月・祝)スポーツの日、台湾で10/13(日)に開催された交流イベント開催の様子が、NHKニュースで放送され、Webのニュース記事にも掲載されました。

書籍

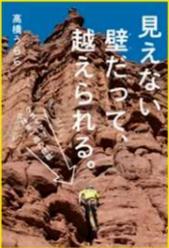
代表小林が主役の児童書「見えない壁だって、越えられる。クライマー小林幸一郎の挑戦」が発売

「見えない壁だって、越えられる。クライマー小林幸一郎の挑戦」(高橋うらら 著・金の星社)が出版されました。小林の年齢にちなんだ56文字の「プチ感想文大賞」を開催し、小中学生から寄せられた感想文から、井戸 琥太郎くん(中学1年生)の作品が大賞に選ばれました。大賞を受賞した琥太郎くんとは代表小林で対談した模様を[noteの記事](#)も公開しました。

小林幸一郎が主役の児童書、好評発売中!

見えない壁だって、越えられる。クライマー 小林幸一郎の挑戦

高橋うらら 文 (2024年9月、金の星社)



難しい事もだれかと挑むことで可能性を広げられると学んだので、人との出会いを大切にする生き方をしていきたい。

井戸 琥太郎

プチ感想文コンテスト 大賞作品

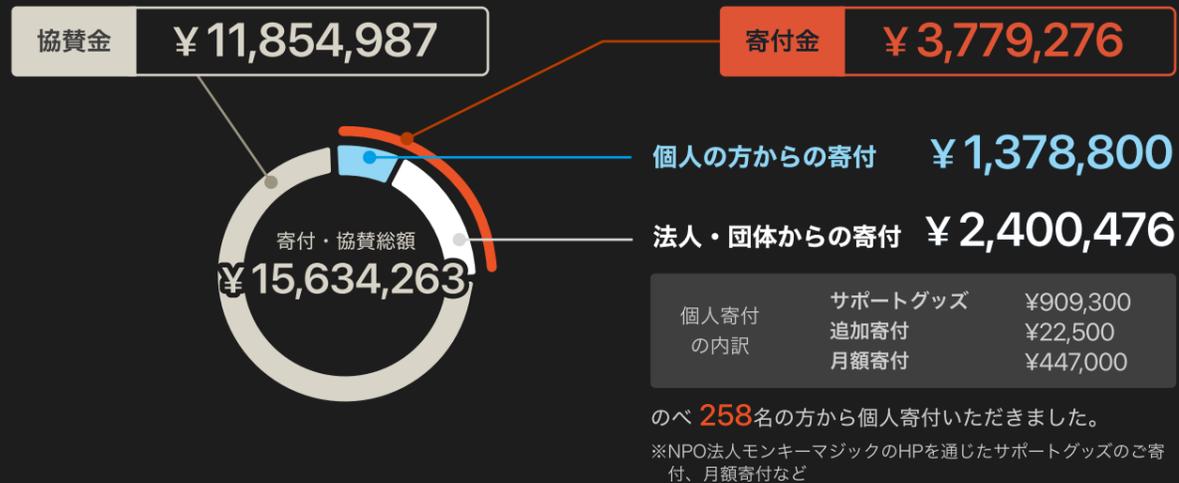
Donation / Support

メディア掲載・出演

Donation / Support

寄付・協賛のお願い

寄付・協賛の内訳



今年度も多大なるご支援をいただき、ありがとうございました。

月額寄付（マンスリーサポーター）になりませんか？

障害、年齢、性別、文化などの違いに関わりなく多様性を認め合えるユニバーサルな社会の実現を目指すモンキーマジックの活動に、継続的に支援いただけるマンスリーサポーターを募っています。

マンスリーサポーターの皆さまとは、ただ応援していただくだけの関係ではなく、社会をより良くするためにできることや、多くの方に届けるためのアイデアを共に考える仲間になっていただければと考えています。ぜひ、皆さまのご支援をお願いいたします。



月額寄付会員の
詳細はこちら



支援企業様

寄付企業／団体(一部)

朝日ライフアセットマネジメント株式会社
 ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
 アズビル株式会社
 azbil みつばち倶楽部
 株式会社リプライ
 株式会社ヤフー
 「ライフ・イズ・クライミング!」青山中学校上映会実行委員会
 アサヒ飲料寄付型自動販 売機設置各オーナー

協賛企業

THE NORTH FACE(株式会社ゴールドウイン)
 CHUMS(株式会社ランドウェル)
 株式会社シーワテック
 ROKX(株式会社 SN Japan)
 株式会社箕面ビール
 株式会社敬洋
 株式会社カンセキ
 株式会社カイセイ（ノバリアクライミングジム）
 ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
 アサヒ飲料株式会社

賛助企業

株式会社シーワテック

助成団体

ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団
 ルルレモンアスレティカ JP 合同会社
 子どもゆめ基金



About

モンキーマジックについて

ビジョン

障害者クライミング普及活動を通じて、多様性を認め合えるユニバーサルな社会を実現し、より成熟した豊かな社会を創ります。

ミッション

モンキーマジックとは、「見えない壁だって、越えられる。」をコンセプトに、フリークライミングを通じて、視覚障害者をはじめとする人々の可能性を大きく広げることを目的とし、活動しているNPO法人です。

2025年度の主要事業

交流型クライミングイベントのさらなる充実と発展に向けて

・ 地域交流型クライミングイベントの定着・発展の支援

全国で展開中の交流型クライミングイベントの開催数拡大だけでなく、既存地域での安定運営やサポート体制の強化にも取り組みます。

・ 主催イベントの定着・発展の支援

2012年から実施している主催交流イベントや、2024年に始動した子ども向けの「モンキッズ」を現在進行中の調査研究を通じて、イベントの社会的意義を明らかにしながら、多様な人々が互いを理解し、関わり合えるきっかけとなる場を広げていきます。

次の10年に向けた共創パートナーシップの拡大

設立20周年を迎える2025年を節目に、新たな企業・個人との持続的なパートナーシップを広げていきます。企業とはCSRやD&Iの観点から、寄付だけでなくサポートグッズ開発や社員向けプログラム提供などの協業を視野に。個人向けには月額寄付制度の認知向上と参加促進を図り、安定した運営体制の構築を目指します。

特定非営利活動法人モンキーマジック

2005年8月設立

事務所 | 〒167-0042 東京都杉並区西荻北4-4-2 セレスト西荻窪208

本部 | 〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町4-11-6

✉ info@monkeymagic.or.jp

🏠 <https://www.monkeymagic.or.jp/>

モンキーマジックでは多様性理解促進を目的とした講演、クライミング体験プログラムの提供、「ライフ・イズ・クライミング！」上映、企業研修などを行なっています。お気軽にご相談ください。

